

[インデックスに戻る](#)

4. 場合の数と確率

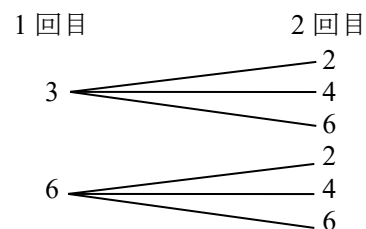
4-2. 場合の数

4-2-1. 和の法則・積の法則

4-2-1-3. 積の法則

(例)

1個のサイコロを2回振って、1回目に出た目を a 、2回目に出た目を b とする。 a が3の倍数であるとき、 a の値は3、6の2通りある。 b が偶数であるとき、 b の値は2、4、6の3通りある。 a が3の倍数であり、かつ、 b が偶数である場合は、以下のようになる。



したがって、この場合の数は

$$2 \times 3 = 6 \text{ 通り}$$

である。

この例のように、2つの場合の数を掛けることにより、別の場合の数を求められることがある。

積の法則

Aの起こり方が a 通りあり、そのそれぞれに対してBの起こり方が b 通りあるとき、Aが起こり、かつ、Bが起こる場合は ab 通りある。

[インデックスに戻る](#)